

# 年頭挨拶

社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力



全国の地

方水難救済  
会、救難所、  
支所の皆

様、新年明  
けましてお

めでとうご

ざいます。

平成十九年の年頭を迎へ、謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます。

全国の救助員の皆様におかれましては、日夜を問わず海難救助出動などでご苦労されており、ますもつて感謝申し上げます。

いつも感じることですが、皆様の海難救助活動状況を見ますと、人命救助などに立ち向かう積極的な姿勢が伺え、本当に頭の下がる思いがいたします。

最近の我が国の気象の状況を見ますと、

青い羽根募金事業については、始まつて

これまで培つてきた気象海象に対する知見を修正する必要があるのではないかと思うような異常とも言える状況が見られます。

皆さんのが救助活動に向かわれる際には、より一層注意され、救助活動に当たられるようお願いしたいと思います。

さて、昨年は十一月末までに、全国で三五三件の海難に出動し、四六〇名、一四八隻の救助に関わり、沿岸海難救助に多大な成果を挙げることができました。これは偏に全国の救助員の皆様の積極果敢な救助活動への取組みと崇高なボランティア精神によるものと改めて敬意を表する次第であります。

また、発足して二十一年を経過しました洋上救急事業は、延べ六〇〇件以上の出動が行われ、日本船舶はもちろんのこと、日

本近海を航行する外国船舶からも高く評価されるに至っております。海上保安庁等関係官庁や関係諸団体の引き続きのご理解とご支援を頂き、当会の主要事業として本制度を推進して参りたいと考えています。

から五十五年を経過し、少しづつ国民の皆様に知られてきているかなという思いがありますが、募資金額としてはまだまだあります。しかし、引き続き努力していかなければなりません。

いと考へています。

当会の運営は、日本財團や日本海事財團その他の諸団体の支援がないと成り立たないわけですが、自らも財政基盤強化のため、的確な事業運営を行い、人命救助等の公益事業を推進することが喫緊の課題であると認識しています。

現在の組織形態になつてから、一〇年を経過し、また、国の施策として、公益法人改革の動きが急でありますことから、本会も所要の見直しを行う必要があるのでないかと考えております。検討を開始したところであります。

最後に、地方水難救済会をはじめ各救難所・支所の皆様のご健勝と御活躍、そして皆様にとりまして今年がより良い年となりますよう祈念しまして、新年のご挨拶といたします。